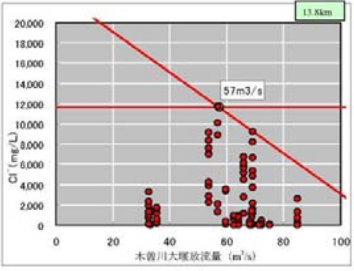


I) 住民の皆様から頂いたご意見等に対する考え方

※現時点では河川管理者の考え方の記述に精粗がありますことをご容赦願います。

No	日付	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
1	2008/4/8	必要流量を検討した魚種に止水域で生息・繁殖可能な魚種が複数含まれていますので、それらについて「瀬」の水深・水流が常に必要とされる理由は教えてください。	・正常流量の手引き(案)の「3.4.1 動植物の生息地又は生育地の状況」及び「漁業」からの必要流量 4) 評価基準の設定」の解説(2. 必要水利条件の設定)によると、「魚類の生息に必要な水利条件は、当該河川で選定された代表魚種の必要水利条件より、河川区別、期別に設定する。必要水深は産卵及び移動等に必要な水深の最大値を包絡した値とする」との記載のとおり設定しています。淵を主な生息場としている魚種は対象魚種としておりません。
2	2008/4/8	カマツカの産卵状態はほとんど未解明にも関わらず、必要な水深・流速が記されていますので、どこで産卵行動を観察されたのか、観察データを教えてください。若しくは、参考にした文献があれば教えてください。	・検討地点については、現地調査、測量成果、航空写真、漁協や学識者からの聞き取りにより得られた瀬を対象区間としており、その産卵場はカマツカに限定していません。カマツカの産卵は流れのゆるやかな場所で行われますので、必要水深、必要流速は必要水利条件の最低値より算出しています。
3	2008/4/8	事業によって生じる可能性のある問題点と対応策(事業効果が不十分な場合の対応策や想定される問題点を検討した資料を提供して頂きたい)	・木曾川水系連絡導水路事業の建設に着手するためには、法アセスと同程度の環境調査を行い、これまでの調査結果を踏まえて環境影響予測を実施します。その予測の結果、影響が大きいと判断されれば、保全措置の検討が必要となります。 ・流水の正常な機能の維持と水道用水及び工業用水の確保のためには、この事業は必要と考えます。
4	2008/4/22	木曾川水系連絡導水路「上流分割案」で、長良川に放流する理由・意義を分かりやすく説明してください。	・第6回徳山ダムに係る導水路検討会(H18.8.30)で上流ルート案と下流ルート案の効果及び経済性を比較して優位と認められた上流ルート案について、引き続き具体的な検討を進めた結果、長良川中流部の河川環境も改善させるため、木曾川への導水量の一部を河川維持流量の補給手段を有しない長良川を經由して導水する上流ルート案としたものです。 ・導水路のルートについては現在検討中であり、一定の幅を持った範囲で示させていただきます。
5	2008/4/22	平成18年・19年度に行った調査結果を明らかにしてください。	・環境調査等の調査結果については、適宜公表していきます。例えば24日に開催しました環境検討会では、これらの調査結果を取りまとめた資料を公表しております。 ・個別の報告書については、情報公開請求の手続きをお取りいただければ、対応させていただきますが、貴重種の確認位置や現時点で公表することにより、ご迷惑をおかけすることになる資料などについては、このような情報を消した形でお渡しすることとなります。 ・ご面倒かとは思いますが、情報公開請求は、皆様に必要な情報を御覧頂くための制度ですので、ご理解下さい。
6	2008/4/22	木曾川水系連絡導水路計画の内容が市民によくわかるような一般に開かれた説明会を速やかに開催してください。	・皆さんと行政が意見交換を行い情報を共有するため、一般に開かれた「ふれあいセミナー」を開催します。
7	2008/4/22	市民との対話の場を保障してください。(本水系では徳山ダムにおける対話集会などの経験があります)。	・皆さんと行政が意見交換を行い情報を共有するため、一般に開かれた「ふれあいセミナー」を開催します。 ・説明会で頂いた意見や、ホームページに寄せられた意見については、次回の検討会やホームページで意見に対する考え方などをご説明させていただきます。 ・これらは、全て公表で行ってまいります。
8	2008/4/22	上記の内容について実現するまで、工事を一切行わないでください。	・ご意見は承りました。
9	2008/4/22	「木曾川水系河川整備基本方針(案) 流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する資料説明(案)[木曾川編]平成19年7月 国土交通省中部地方整備局」に記載されている「A区間における必要流量」に関して質問いたします。  ・検討地点 ヤマトシジミの生息に汽水域の全区間(0.0kmから26.0km)。 ・必要水利条件 ヤマトシジミの瀕死に最も影響する要因は塩素イオン濃度であり、その限界値は概ね11,600mg/lであることが推測されている。よって、塩素イオン濃度11,600mg/lを上回らないのに必要最低限度の流量を必要水利条件とする。 ・必要流量の設定 主要な地点において塩素イオン濃度の観測を複数回実施し(平成17年5月～平成18年3月において25回)、塩素イオン濃度と流量の関係式を作成し、ヤマトシジミが生存できる限界の塩素イオン濃度11,600mg/lを上回らないのに必要流量は概ね50m <sup>3</sup> /s以上であることを確認した。とあります。  「塩素イオン濃度11,600mg/lを上回らない」という条件は、当該地点で常時この値を上回らないという意味でよろしいですか？	・塩素イオン濃度11,600mg/lを上回らないというのは、その流量が確保されていれば基本的には常時この値を上回らないと考えます。

No	日付	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
10	2008/4/22	<p>「塩素イオン濃度と流量の関係式」を示してください。また、「図2.6 ヤマトシジミの生息環境として必要と思われる流量」における直線は上の関係式によるものですか？</p>  <p>図2.6 ヤマトシジミの生息環境として必要と思われる流量</p>	<p>・木曾川大塚の放流量と13.8km地点の塩素イオン濃度をプロットしたグラフの包絡線のことを関係式と表現したものです。</p>
11	2008/4/22	<p>図2.6は、13.8km地点における調査結果で、各プロットは実測値ですか？このようなデータは、他の主要各地点においてどうなっているのか、教えてください。</p>	<p>・図2-6については全て実測値です。13.8kmは主要な地点のうち上流側の地点であり、他の地点は下流側であることから、この塩素イオン濃度を上回らないために必要な流量はさらに大きくなります。その他は【揖斐川編】に記載しておりますが、8.2km地点のものがあります。</p>
12	2008/4/22	<p>「ヤマトシジミの瀕死に最も影響する要因は塩素イオン濃度であり、その限界値は概ね11,600mg/lであることが推測されている」とありますが、11,600mg/lの塩水は、ヤマトシジミにどのような影響を与えるのか具体的に教えてください。また、その出典(根拠)を教えてください。</p>	<p>・「木曾三川河口域で漁獲されたヤマトシジミの成員を対象として、塩分耐性に関する室内実験(貝の死亡率、ろ水率等の実験)を行なった結果、木曾三川河口域漁場におけるヤマトシジミ成員の生息に適した最適塩分濃度はおよそS3.5～10.5(‰)で、S0.3(‰)以下及びS21(‰)以上の海水は不適※」との知見が得られたので、それを参考にしています。(※:ヤマトシジミの塩分耐性について 田中彌太郎 参照)          ・また、ヤマトシジミの死亡は、H6、H12、H14に起こっており、それらの年は何れも渇水年のため流況は平年よりも下回ります。</p>
13	2008/4/22	<p>平成6年の異常渇水時にヤマトシジミが異常に死亡したという認識ですか？もしそうであれば、その科学的な根拠を示してください。</p>	<p>・新聞報道や関係者機関ヒアリング等により、シジミの大量死亡があったことを認識しています。(死亡は流況の悪い年に発生しています)          ・流量と塩素イオン濃度の包絡線の傾きが示すとおり、流量が少なく、塩素イオン濃度が高くなったことも大量死亡の要因の一つと考えます。木曾川水系の感潮域における水量と水質との関係については、田中彌太郎先生の論文が一番詳しく調べられた文献と判断し、これを採用しています。</p>
14	2008/4/22	<p>10年間にわたり蓄積された「長良川河口堰モニタリング調査」および「フォローアップ調査」のデータは検討されたかどうか、教えてください。</p>	<p>・「長良川河口堰モニタリング調査」及び「フォローアップ調査」のデータは、調査地点が異なるため使用しておりません。</p>
15	2008/5/19	<p>木曾川水系連絡導水路計画の内容が市民によくわかるような一般に開かれた説明会を速やかに開催して下さい。</p>	<p>・皆さんと行政が意見交換を行い情報を共有するため、一般に開かれた「ふれあいセミナー」を開催します。</p>
16	2008/5/19	<p>長良川に放流することを明確にした「上流分割案」に至った経緯・理由がこれまで公開されている資料では市民にまったく理解できません。第6回及び第7回木曾川水系連絡導水路検討委員会の議事録を公開して下さい。</p>	<p>・「上流分割案」に至った理由については、異常渇水時の危機管理対策を揖斐川と木曾川だけでなく、長良川においても実現させるために検討した結果です。          ・これは、徳山ダムに係る導水路検討会(第7回)(H19.8.22)の参考資料のP8「木曾川水系連絡導水路計画の概要(導水ルート(上流分割案の検討))」の1.背景・基本方針に記載しています。          ・「長良川についてはダムの適地がほとんど無く、不特定容量が確保出来ないことから、中流部における計画的な河川維持流量の確保が出来ない。これより、揖斐川西平ダム付近から木曾川坂祝地区に導水する、「上流案」を基本とした上で、木曾川水系連絡導水路事業の目的である木曾川の河川環境の改善効果は変えずに長良川中流部の河川環境も改善させる」ため、木曾川水系連絡導水路による木曾川への導水の一部を長良川を経由させることが可能となる「上流分割案」に至ったものです。          ・経緯については、第6回検討会(H18.8.30)の後、事務局(中部地方整備局河川部)において、上流ルート案にて実施計画調査を進め、コスト縮減の観点を含めた事業計画(案)の作成に向けた具体的な検討を進めていたのですが、その過程で長良川についても異常渇水時の危機管理対策を行いたいと行政的な判断で「上流分割案」が案出し、第7回検討会において関係者に諮ったものです。</p>
17	2008/5/19	<p>河川環境改善を目的とする毎秒4m³/s放流はどの位置で、どのような渇水時を想定しているのか明確に答えて下さい。</p>	<p>・導水路事業は、河川環境の改善を目的として、異常渇水時に木曾川の木曾成戸地点において40m³/sを確保するために導水します。          ・導水するタイミングは、木曾川上流の不特定容量を持つ阿木川ダム、味噌川ダム及び新丸山ダムの容量が半分以下となり、さらに木曾成戸地点の流量が40m³/sを下回ったとき、これを確保するために補給し、このとき長良川にも放流されることになります。</p>

No	日付	頂いたご意見	頂いたご意見に対する考え方
18	2008/5/19	忠節流量を導水により1/10濁水時毎秒20m <sup>3</sup> 及び異常濁水時11m <sup>3</sup> /sを確保することによってどのような河川改善の効果があるのか「導水なし」のケースと比較して明らかにして下さい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H6の異常濁水時には最小流量は約7m<sup>3</sup>/sで、アユ等の産卵に必要と考えられている流量に足りませんが、導水路により11m<sup>3</sup>/sを確保した場合、いくつかある産卵場のうち1箇所は、おおむねこれを満足することができると思います。</li> <li>・1/10濁水時には導水路がない場合は約16m<sup>3</sup>/s程度(1/10濁水流量)と考えられますが、導水路により20m<sup>3</sup>/sが確保されれば、流水の正常な機能を維持するために必要な流量として設定された26m<sup>3</sup>/sに、より近づけることが可能となります。</li> </ul>
19	2008/5/19	河川環境改善に関する重要な資料:木曾川水系河川整備方針(案)「流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する説明資料(案)(平成19年7月)は、正常流量を算出根拠となっているものと思われませんが事実認識と科学性に疑問を感じます。資料作成に携わった専門家との討論の場を設けて下さい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このような学術的なテーマは討論会のテーマにはなじまないと考えます。</li> <li>・先生の知見を論文等で提出頂ければ、勉強させていただきます。そして必要に応じて河川管理者としての考えを示させていただきます。</li> </ul>
20	2008/5/19	以上の内容について実現するまで、工事を一切行わないで下さい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見は承りました。</li> </ul>